



先月の山行

- ☆ 1月 2日(日) 鬼が岳
- ☆ 15日(日) 日野山
- ☆ 27日(日) 越知山 中止

2月の予定

- ☆ 10日(日) 取立山 6時

CL

- ★ 14日(日) 例会

- ☆ 24日(日) 銀杏峰、越前甲

CL

3月の予定

- ☆ 10日(日) ブナが岳、伊吹山

CL

- ★ 14日(木) 例会

- ☆ 24日(日) 藤原岳、権現山

CL

冬季は積雪を考慮して決定します。

遭難対策基金1000円会計までお願いします。

<https://asihiking2.jimdo.com/山行計画-1>

を検索して下さい。

山行計画書を提出して下さい

クラブ山行の場合はリーダーが、個人山行の場合はそれぞれで山行前日迄に宮本会長まで。

[山行報告]

日野山794m

日時 2019年1月13日(日)



7時に浴場組合集合で、荒谷から登り始める。凍結した急斜面を下ると、あのサイトでは数年前に死亡者が出ているので、安全のために、荒谷から登り平吹に下るルートとなった。10時には、頂上に着いた。積雪は30cmほど。晴天で、白山や冠岳、荒島岳、部子山が見え 風もなく、頂上で、ぜんざいのお餅をおいしく頂いた。

私らとは10歳若い女性が一人で登ってきたので、ホームページの登山動画も参照して入会してはとみんなで勧めた。koizuさんの動画やホームページは、こうしたことに役立つ。

12時に下山しても、予報とは異なって天気の良いので、三床山に行こうという提案がiwaさんから。前日も登っているのに、本当に元気なメンバーである。みんなの賛同で、トンネル口から歩き始めて50分ほどで三床山頂上。文殊山と異なり、ぬかるみがなくて歩きやすい。この頂上は平野越しに対面の山から海まで270度のパノラマで、次から次と登ってきては降りる人が続く。

参加者が6名と少なかったのは日野山では、いつでも個人で登れるからだろうか。これだけ晴天だったのであれば荒島岳の計画だったなら参加者も増えたのではないかなど、鯖江の風呂の中でCLだったHATAさ

んと雑談になった。冬は、天気と積雪状況で計画は立てにくい。次回の越知山をどうするか。2案を作り、臨機応変にするか。

浴場組合の駐車では、組合の会議があったようで無断駐車お断り、明日もあるからとの紙が貼られていた。夜間は今までこうしたことはなくて、おそらく部屋を借りる際に了解を得ていたものと思うが、日曜は、こうしたことがあるようである。

(文 miya)



【個人山行報告】

銀杏峰 (1441m)

日時：2019年1月12日(土)



大野の市街地から宝慶寺に進むにつれ、車道は^{わだち}轍になり、ミシミシと凍った音が聞こえる。「宝慶寺いこいの森」の駐車場までは入れないので、県道の橋を過ぎた所に路駐する。停まっている車は3台と意外に少ない。路面が凍っているの、カンジキは車に置いて最初か

らアイゼンを装着する。いこいの森キャンプ場の登山口まではショートカットのトレースがあるので、得した気分だ。

いきなりの急登で、身体が温まり、寒さも和らぐ。林道分岐から名松新道コースに入ったあたりで一服する。三本の名松のうち羽衣の松は朽ちている。

今日はわずかに樹間から太陽が見えるが、晴れの^{きざし}兆しはない。しかし前山まで来ると大野盆地とその後ろに真っ白な白山、加越国境の山々、荒島岳とさえぎるものはなく、モノトーンの世界になる。さらに前山からアップダウンのブナ林を進むと、雪質が変わってくる。意外にも雪が緩んでいて、踏み抜くこともあり、カンジキを持って来なかったことを後悔する。

頂上への稜線に出ると部子山の反射板が見えてくる。今年は今のままでは雪が少なく、ブッシュが出ているため銀杏峰から部子山までの縦走はできないだろう。稜線上は風も強くなり、防寒の必要性を感じる。風のなせる^{わざ}業か、雪面はシュカブラ、棒状の木はエビの尻尾が張り付き、ハイマツはモンスターに変身していた。頂上手前の木々は樹氷のオンパレードだ。風の向きのためか、頂上の祠の屋根の北向きはエビの尻尾状で、反対側は全く雪が付いてない状態だ。

頂上から360度の眺めをじっくり楽しみたいが、寒くて居られない。防寒着を身に付けているうちに、ガスが出てきてあつという間に白山を飲み込んだ。周りが見えなくなるホワイトアウト現象だ。頂上は極寒の世界で長居はできない。早々に写真撮影して下山開始するが、前を行く人の姿が^{かす}微かにしか見えない。慌てて後追いする。

10分ほど下りると、何事もなかったようにガスが切れて白山が見えてきた。ここで雪を踏みしめスペースを作り、暖かい食事を摂った。



鬼が岳 532m

日時 2019年1月2日(水)



今年1回目の山行、天気は冬型の気圧配置だが朝から雨、8時例会場前に集まり、9時友友清リーダーと合流する。大虫滝入口から登山開始(年中水量が変わらない不思議な滝だとか?) 蛇が岳を通過する頃には雨から雪に変わる、県道トンネル上とみられる林道を歩き奥鬼が嶽登山口へ、ダラダラとした尾根道だが木々に登山道を示すリボンが付けてあり迷う事を防いでくれている。出発から3時間で目的地の鬼が岳山頂に着く12時頃には晴れ間も出てきた、頂上ランチ後JAカントリー方面に下山(13時半)、鯖江市三六温泉で汗を流して帰福する。

鬼が岳山頂山小屋にはなんと石油ストーブがあり、下山途中の表参道では見晴らしのよい所に屋根付きベンチ、駐車場も整備され登山者には靴洗い場もある。この山が市民に愛されている事がよくわかる魅力的な山行でもあった。



「編集後記」



日本勤労者山岳連盟発行「登山時報」では、労山会員の皆さんからの投稿写真を募集しています。

登山時報投稿写真係 <mailto:tozanjiho@jwaf.jp>